



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

オーストラリア図書館訪問報告	
—大学図書館と電子ブッカー	1
北京出張報告	3
学術ポータル担当者研修 参加報告	5
機関リポジトリは博士論文も掲載しています	6
《ブックトーク》	
読書の秋におすすめの本	7
図書館紹介：ようこそ教育発達科学図書室へ	8
秋季講習会のご案内	10
本学教員著作物寄贈リスト	11
あなたのアイデアで図書館を変える！	
第3回図書館をよくする学生アイデアコンテスト	12

オーストラリア図書館訪問報告—大学図書館と電子ブッカー—

森 彩 乃

2011年6月28日から7月6日の9日間オーストラリアで、6月30日、7月1日に開催された「アジア地区 電子ブックセミナー」に参加し、あわせてシドニーとキャンベラの図書館を訪問して図書館の電子ブックを中心に調査しました。

オーストラリアの図書館では電子ブックや電子ジャーナルを多く購読し、多くの大学図書館が本学の数倍の電子資料を購読・提供しています。また、国内では国立図書館や公共図書館でも電子資料を購読・提供しているほか、国立、大学、州立の図書館では所蔵コレクションのデジタル化及び Web での公開もさかんです。

このような電子資料の増加の中で施設としての図書館とそのサービスは大きく変わってきました。以下では、訪問した図書館のうちシドニーにあるマッコーリー大学図書館とシドニー工科大学図書館、キャンベラにあるオーストラリア国立大学図書館の取り組みを紹介します。

■マッコーリー大学図書館

マッコーリー大学はシドニー郊外にある州立大学で学生数は約31,000名、4学部が設置されている大学です。図書館では約90万点の図書を所蔵し、約14万点の電子ブックを購読しています。

今回はオープン1か月前となっていた新図書館を見学しましたが、この新図書館にはオーストラリア初の導入となる自動書庫がありました。

また、自動書庫によりスペースを節約して資料を保管できる分、館内には学習スペースが広くとってあり、以前の2倍以上となる約3,000席の閲覧席が設置されています。



マッコーリー大学新図書館外観

新図書館は「対話のある図書館」をコンセプトの一つとしているのですが、館内にはプレゼンテーションの練習コーナーやソファセットも多く、自由に話して学習できる空間がつけられていました。館内の一部では飲食が許可されていて、ミニキッチンを備えた飲食コーナーもあり、長時間滞在しやすい場所になるよう配慮されています。オーストラリアでは近年図書館内の飲食を許可する大学図書館が増えてきたようですが、利用者のマナーもよく問題はほとんどないようで、どの図書館も清潔に保たれていました。

なお、マッコーリー大学図書館は職員と利用者の対話も重視しており、新図書館の利用ルールや運営方法などはオープン後に利用者の意見を取り入れながら柔軟に対応して運用していく予定とのことでした。



書架及び学習エリア

■シドニー工科大学図書館

シドニー工科大学は学生数約30,000名、7学部が設置されている州立大学です。電子ブックは約56,000タイトルを購読しています。

今回訪問した Blake Library は4フロアの図書館で館内にはPCのある閲覧席が約300席、ほかに資料検索端末や情報コンセントのある閲覧席も多く設けられており、館内のPCが不足しないようにしています。また、図書館の入り口近くでは館内のPCの使用状況がディスプレイに表示され、利用者が空いているPCを探しやすいように工夫されていました。



資料検索端末コーナー

また、この図書館では新しい電子ブックサービスとして研究用の電子ブックだけではなく、娯楽小説の電子ブックを購入して提供しています。自宅や研究室から利用できるオンラインサービスも充実させており、図書、電子資料、機関

リポジトリのコンテンツなどの横断検索サービスやチャットによるレファレンスサービス、YouTube を利用した資料検索ガイド、Facebook や twitter によるサービスも提供しています。

■オーストラリア国立大学図書館

オーストラリア国立大学はキャンベラにあり、学生数約17,000名、7学部が設置されている研究大学です。図書館は学内に主なもの4つあるほか、キャンパス外に大規模な保存書庫を持っています。

オーストラリア国立大学図書館では古い資料や電子媒体でも利用できる資料を保存書庫に保管し、図書館の改修を順次行ってきました。改修では学習スペースを増やし、ソファセットやノートPC用のセキュリティロックのついた閲覧席、グループ学習室などを増設しています。



オーストラリア国立大学 Menzies Library 外観

■まとめ

今回訪問した大学図書館の多くでは、提供する電子資料の増加に伴って、図書館には学習スペースを充実させ、その一方で図書館に来なくても十分に電子資料を活用できるようにオンラインサービスの充実もはかられていました。

名古屋大学でも提供する電子資料が増加してきましたが、その中で今後利用者に提供する学習環境、サービスは、今回の訪問で得られた情報も参考にして利用者のニーズにあわせて変えていくべきであると思いました。

最後に今回のセミナー参加及び図書館訪問の機会を与えてくださった関係者の皆様及びオーストラリアで親切にご対応くださった方々にお礼申し上げます。

(もり・あやの 図書情報掛)

北京出張報告

澤口由好

北京で開催された「2011 International Seminar on Chinese Digital Publishing and Digital Library」に、2011年8月29日から31日の間参加しました。このセミナーは主に中国の電子出版と電子図書館について意見交換することを目的として開催されたものです。私は、各国図書館または出版社による事例報告が主であるセミナーと、会場でもある清華大学図書館や北京大学図書館を見学する図書館訪問に参加しました。

セミナーには、中国、台湾、香港を中心に20カ国ほどから図書館長や図書館員、出版関係者など、期間通して500名程の参加者が集まりました。このうちの約30名の参加者が、各自15分で主に自館の電子資料の導入例や利用方法などの事例報告を行いました。資料の電子化が進み、図書館の役割が変化していくという状況にあるのは日本だけでなく、どの国でも同じであると感じました。

図書館訪問としては、以下で紹介する清華大学、北京大学のほかに、CNKI (China National Knowledge Infrastructure) の見学、北京国際図書博覧会に行きました。

CNKIは国家プロジェクトであり、中国で発行された雑誌・学位論文・新聞・会議録・年鑑・参考図書など学術資料の多くを電子化し提供しており、今回はその作業工程を見学しました。

北京国際図書博覧会では、大型ディスプレイやパソコンを用意し電子資料を実際に見て操作することができる、という展示方法をとっている出版社ブースが多かったように思います。

■清華大学図書館

清華大学は、1911年創立の歴史ある大学です。学生数は約32,000人、16の学部と56の学科があり、北京の北西に位置します。広大な敷地の中に、教職員や学生の住居もあり、キャンパス内の移動は自転車が多いですが、学内バスも走っていました。

図書館は、本館を含めて8つの図書館・分館

と10個程の図書室とで構成されています。蔵書数は400万冊を超え、その他にも、全文利用可能な電子ジャーナルは中国語その他の言語含めて57,000種以上、電子ブックは約239万冊が利用可能です。総座席数は3,500席あります。

私は、人文社科図書館と本館を見学しました。

人文社科図書館

人文社科図書館は、2011年4月に開館したばかりの図書館で、120万冊の収容能力と1,000の座席数があります。

パソコンが45台ほど設置された学習エリアでは、未使用のパソコンが一目でわかるディスプレイが設置されていました。検索用パソコンの横には、レファレンスカウンター直結の電話機が設置されており、何かあればすぐに職員に質問できるようになっています。



人文社科図書館

本館

本館は老館と逸夫館の2館からなります。もう1館建築予定で、計3館を廊下で結び1つの本館とする予定だそうです。老館は1900年代前半建築の趣ある建物で、エアコンがないとのことでしたが、自習する学生でいっぱいでした。老館、逸夫館、人文社科図書館それぞれに、教員や卒業生からの寄贈本室が1部屋あり、寄贈本を大切に扱っているようでした。



老館内の自習室



逸夫館

■北京大学図書館

北京大学は清華大学の隣にあります。清華大学同様の広いキャンパスで、学生数は約37,000人です。

図書館は本館と約30の分館があり、蔵書数は800万冊を超えます。このうちの150万冊が中文古籍で、うち20万冊が5～18世紀の貴重な資料です。

私は本館を見学しましたが、吹き抜けを囲むようにして上階に閲覧席が配置されており、総座席数は約4,000席あります。

吹き抜けから下を眺めると、インフォメーションカウンターが「？」(クエスチョンマーク)の形に見えるという工夫がされていました。



北京大学図書館 本館

清華大学図書館もそうでしたが、広い図書館の中で分野・種類ごとに部屋が分かれていて、北京大学では、科学技術系図書の部屋、人文社会系図書の部屋、学位論文の部屋ほか計30程の部屋があり、それぞれに担当者が1人以上配置されていました。

館内には資料の電子化を行う部署もあり、機器がそろえられ、資料を電子化する作業を行っていました。

■まとめ

中国の第一印象は、“広い”ということでしたが、図書館もやはり広く、豊富な収容能力がある上にさらに図書館が新築され、日本の図書館のように、書架が足りないという悩みはないだろうと感じました。

資料の電子化という点については、中国語の学術資料の多くが電子化されているため、大学内で利用できる電子資料も名古屋大学とは比べ物にならないほど多いようでした。それらの利用者への提供方法などについても、今回北京でお知り合いになれた方にもう少し質問し調査して、今後名古屋大学での電子資料の利用について考える際に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった関係者の皆様と、北京でお世話になった皆様に感謝申し上げます。

(さわぐち・ゆうこ 図書情報掛)

学術ポータル担当者研修 参加報告

安 福 奈 美

2011年8月3日から5日に名古屋大学附属図書館で開催された「学術ポータル担当者研修」(国立情報学研究所・名古屋大学附属図書館共催)に参加しました。この研修は「主に大学図書館において、新たな学術情報の提供・発信サービスの企画力を身に付ける」ことを目標としています。

(<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h23/curritxt.html>)

■研修プログラム・進行

講義のみならず研修全体の構成や進行が秀逸でした。特に印象に残ったのは次の3点です。

①「図書館」ではなく「サービス」が出発点

これまでに参加した研修では、現状の図書館サービスを発展させるという視点が多かったように思います。今回の研修では、CiNii、機関リポジトリ、カーリル、Twitter、Cute Searchなどの具体的なウェブサービスをどのように図書館で活用するかが中心でした。実際にサービスを企画・作成・提供している講師陣から、具体的な技術や事例について生の声を聞くことができました。

②グループ討議・発表が中心

講義は全体の四分の一程度で、他は全てグループ討議と発表でした。各グループは「一度却下された企画案を却下理由に対抗できるように練り直し、再提案する」という設定で、プロジェクトチームになりきって討議します。発表ポスター作成・プレゼン練習等を時間内に行わなければならない、最終発表では聴衆の投票により企画の承認・却下を決定するという、気を抜く暇のないプログラムでした。

参加者が初対面でも内容の濃い議論ができるよう、進行にも以下のような工夫が凝らされ、討議の手法に学ぶところが多くありました。

・アイデア出しシート

1グループ6名が企画に関するアイデアを3つずつ書き、それを6枚繰り返す。出たアイデアを回覧し、良いと思うものに☆印を付ける。☆印の多かったものを検討する

という手順で行います。講師から「もう出ないと思ったところで出たアイデアが本物」「誰も評価しなかった案は二度と蒸し返さない」などの助言があり、アイデアの整理にとっても有効であると思いました。

・ポスター発表

計4回のグループ発表は全て模造紙に書き込んだポスターの前で発表する形式でした。検討過程をすぐにポスターに反映できるので討議に集中でき、発表後に聴衆が付箋にコメントを書いて貼り付けることにより、多くの意見を集めることができました。



ポスターと付箋コメント

③研修の様態をリアルタイム配信

研修の様子は、コーディネータの岡本真さん(ARG)が写真とともにTwitterで中継し、会場外からも多くの人に注目されていたようです。時間中は他の班の状況を見る余裕もありませんでしたが、後でTwitterのまとめ(<http://togetter.com/li/169936>)を見ると講師陣からのコメントもあり、研修の流れを振り返ることができました。

■まとめ

内容・構成ともに、体力と集中力が求められる充実したプログラムでした。また、グループ討議・発表では、他班の当意即妙な受答えに感心しました。短期間の討議では検討しきれない部分もありますが、企画を通すためには優れたプレゼンと質疑応答を乗り切る対応力が企画の内容と並んで重要だと感じました。

研修の成果を実際の業務やサービスで展開するには少し時間がかかりそうですが、プログラムそのものが大変刺激になった3日間でした。研修の講師・スタッフ・参加者各位に感謝します。

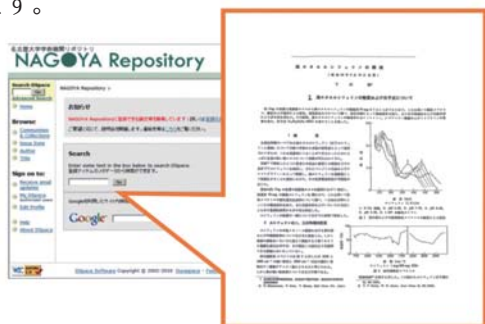
(やすふく・なみ 参考調査掛)

「NAGOYA Repository」は博士論文も掲載しています

名古屋大学学術機関リポジトリ「NAGOYA Repository」(<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/>)は、研究成果である学術論文等をご提供くださる方々の協力によって、平成18年2月の公開から、コンテンツ数を順調に増やし、現在約12,000件を掲載しています。平成22年度には、約100万件ものコンテンツのダウンロードがあり、年々利用件数が増加しています。収録されるコンテンツは、学術雑誌に掲載されたもので出版者から許可を得られたものや、学内紀要などの定期刊行物、あるいは博士論文などです。

特に博士論文は今まで、所蔵している機関に行って閲覧するか、複写依頼をするなど利用に手間がかかったのに比べ、リポジトリに収録されるとオンラインで手軽に閲覧することができるようになります。現在、1,000点以上の名古屋大学の博士論文が本リポジトリには収録されており、その中には、ノーベル賞受賞者の益川敏英先生や下村脩先生の博士論文もあります。

さらなる登録促進をめざし、ご協力をお願いします。



■検索され、利用される可能性が高まります。

博士論文を「NAGOYA Repository」へ登録していただくと、利用者だけでなく、著者にも次のようなメリットがあります。

機関リポジトリに学術的な成果を登録することの利点のひとつに、インターネット上の検索エンジンから見つけれられる可能性が増えるという点があります。これは、機関リポジトリが収録物のカタログを外部に一括提供する仕組みを持っているからです。特に博士論文は、Networked Digital Library of Theses and Dissertations (NDLTD) という国際的なデータベース (<http://www.ndltd.org>) にも情報を提供していますから、論文を必要とする人々

からの検索性はとても高いといつてよいでしょう。もちろん、Google などの検索エンジンで論文タイトルを直接検索しても、容易に本リポジトリの収録論文にたどり着くことができます。

このように、NAGOYA Repository の名前を知らなくても、必要な人が探している論文を見つける道筋がいくつも用意されているのです。

■博士論文の登録が制度化されました。

さて、平成23年度から、本リポジトリでは博士論文の制度的な収集をはじめました。今までは、リポジトリの登録担当者がそれぞれの博士論文の著者に個別に掲載許諾をお願いしていました。これからは、各部局に博士論文を提出していただくときに、掲載許諾書と電子媒体も同時に提出していただくことで、より確実にスムーズに機関リポジトリへの掲載ができるようになりました。許諾書には、諸々の事情で、論文をインターネットから一般公開できないという場合の記入欄も設けられています。

過去の博士論文については、今後も著者の方々に個別に収録の許諾をいただきながら機関リポジトリへの収録を進めていきます。なかでも、国立国会図書館が実施している大規模デジタル化事業の一部に博士論文の電子化も含まれていることから、本学でもこれに協力し、より多くの方々から遡及的に掲載の許諾をいただけるよう努力しています。

■登録は常時受け付けています。

博士論文以外の学術的な成果物も歓迎しています。論文の登録要領は、NAGOYA Repository のトップページ (<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/>) からご覧いただけます。機関リポジトリへの掲載は、著者ご本人（と共著者）の許諾、さらに、それがすでに雑誌等で出版されている場合は出版者からの許諾がそれぞれ必要です。出版者からの許諾取得はリポジトリ登録担当者が行いますので、論文を提供くださる方は、ご自分と共著者が掲載に同意することだけを示していただくだけで構いません。詳しくはお気軽にお問い合わせください。

(情報推進部情報推進課学術情報システム掛)

≪ブックトーク≫

読書の秋におすすめの本

「ブックトーク」の第3回です。今回は、理学部・理学研究科関連の先生方からのオススメの本の紹介です。「読書の秋」と言われるように、秋は本を読むのに最適な季節です。ぜひ手に取ってみてください。

『日本の大転換』

中沢新一 著 集英社 2011年刊

30年ほど前に「パラダイム」という言葉がよく使われた。科学の発展は、細かな修正の蓄積よりも、考え方の枠組みの劇的な転換によってなされるということを主張するために、科学史家のトーマス・クーンが、その枠組を指す言葉として用いたと記憶している。その後「パラダイムシフト」は、考え方の転換を指す言葉として多くの学問分野で用いられた。この言葉を使い出させたのは、言うまでもなく、3月11日の大震災と原発事故である。私たちの日常生活が、人生が、そして大学や社会がどう変わろうとしているのか、また、それをどう変えていかなければならないのか、3.11以後のパラダイムシフトを考えるための参考書の1冊としてお勧めする。

(理学研究科(生命理学専攻)教授 大隅圭太)

〈所蔵：中央館〉

『The Search』

C. P. Snow 著 Macmillan 1958年刊

英国留学中に恩師からこの本を頂いて読んだのは30年ほど前のことである。一人の若者が研究者として成長して行く過程で、科学者としての喜びや苦悩を通して、科学の理想の姿と現実との乖離に悩みながら真摯に生きて行く姿を描いた作品であるが、「著者自身の経験に基づいて著された作品ではないか」と言われたくらいに、研究者達の姿が生き生きと描かれている。

時代は移っても、人間社会の本質は何も変わらない。研究者の世界とて例外ではない。理想の姿を追い求める真摯な主人公に己の姿を重ねるのか、それとも……

本書は文系／理系を問わず、悩み多き若手研究者に歩むべき道を教えてくれるかも知れない。古い本であるが、研究者を志す若者にはぜひ読んでおいて頂きたい一冊である。英語で書かれた文学作品を読み通せるようになれば、無限の世界へと続く扉が開く。

(理学研究科(物質理学専攻/物質科学国際研究センター)准教授 高木秀夫)

〈所蔵：中央館〉

『新版 森と人間の文化史』

只木良也 著 NHKブックス 2010年刊

「森林」について分かりやすい解説書は何か？と問われた時にお薦めの一冊。NHK教育テレビ市民大学講座をまとめ1988年に出版された旧版に京都議定書など最近の知見も加えられた新版。旧版は国語の教材として何度か取り上げられたというほど分かりやすい文章と、著者の京都弁を思い出させる平易かつテンポある解説で、水や大気、土といった日本の森からの恵みの重要性について再認識させられる。生態遷移(植物が自然に交代して移りかわること)の視点から京都嵐山や木曾ヒノキ林の過去から将来への景観を説明した章や森林の自賄いシステムから見た都市生態系の問題点、卑弥呼はマツを見たか？など日本人とマツの歴史の章は人と森との関係を改めて考えさせられる。最後に技術力国日本に「生きた緑」の活用技術開発を求めている点などからも、文系理系問わずさまざまな分野の方には是非ともご一読いただきたい。

(環境学研究科(地球環境科学専攻)

准教授 平野恭弘)

〈所蔵：中央館ほか〉

ようこそ教育発達科学図書室へ

米津友子

教育発達科学図書室は、東山キャンパスの南西に位置する教育発達科学研究科・教育学部の建物の1階西側にあります。



教育学部棟

■蔵書

教育学・心理学分野を中心とした約11万冊の図書資料を所蔵しています。その構成は、一般図書、参考図書、雑誌・紀要、博士論文・修士論文、そして、特殊資料群として、教科書、旧制学校一覧、戦前の文部省統計類、和装本、マイクロ資料などがあります。

中でも戦前から揃う約1万冊の教科書類や旧制学校一覧は、学内の利用はもとより、全国の大学・公共図書館等からの問い合わせや貸出依頼が多く、希少かつ有用な資料です。



教科書

また、図書室では、新しい資料の収集にも努めています。教員・学生への推薦図書や購入希望図書の募集、新刊書の選書、他大学・他機関からの寄贈資料の受入など、当該分野の専門図書室として幅広い利用に応えられる蔵書構成を目指しています。

■設備

図書室の書架は、すべて集密書架となっています。書架を動かす際は、必ず書架の間に人がいないかを確認してから操作を行い、書架に入る前にロックをしてください。安全のためご協力をお願いします。

図書室の南側中央には30席あまりの閲覧室があります。通路とはガラスで仕切られ、落ち着いて学習できるスペースとなっています。

また、利用者用のパソコンが6台あり、蔵書検索や文献データベースの検索によく利用されています。

他に校費・私費用のコピー機やマイクロ資料を閲覧するマイクロリーダーを備えています。



閲覧室

■サービス

図書室の開室時間は、学生休業期間を除き、平日9時から20時まで、土曜日13時から17時までとなっています。夜間や土曜日の開室は、平日来室しにくい社会人学生や学外者の方などに便利です。学生休業期間中は、平日のみの開室で9時から17時までとなります。

カウンターでは、貸出・返却だけでなく、図書室の利用案内、図書や雑誌の所蔵状況、文献の探し方、学習や研究を進めるうえで調べたい事柄など、様々な問い合わせに応じています。お気軽にお尋ねください。

また、本研究科・学部の方には、学外から文献の取り寄せを行っています。OPACを確認後、Webからお申し込みください。



書 架

■最近の出来事

昨年の夏以降、図書室は書庫の環境整備のため、カビ対策を進めてきました。延べ2,600冊のカビ除去作業、除湿機の稼働、網戸による換気、温湿度管理、書庫の定期点検などを行い、現在は良好な環境を保てるようになりました。

また、昨年度末、劣化により酢酸臭の出始めていたマイクロフィルムを利用と保存のため、190本複製を行いました。新しいフィルムは、



D V D

早速利用されています。今後も予算措置を行い、劣化したフィルムの複製を行っていく予定です。

もうひとつ昨年から始めたこととして、DVDの館外貸出（学内者のみ）があります。視聴覚資料の貸出規則を整備し、現在は約70点のDVDが利用できます。特に心理学シリーズの貸出が多く、学生に大変好評です。

■最後に

図書室は、本研究科・学部の方だけでなく、他部局の方からも広く利用されています。また、他大学・他機関の方や一般の市民の方の利用もあります。これは教育学・心理学分野の豊富な図書資料を有するためと思います。

今後も多くの方に図書室を活用してもらうため、どなたでも利用しやすい開かれた図書室、資料を保存するだけでなく、いつでも提供できるように整備された必要とされる図書室を目指し、努力していきたいと思っております。

みなさまの利用をお待ちしております。

☆数字でみる教育発達科学図書室☆

- (1) 蔵書（平成23年3月末現在）
 - ・蔵書冊数 116,911冊
和書72,291冊 洋書44,620冊
 - ・雑誌種数 1,156種
日本語768種 外国語388種
- (2) 施設
 - ・図書室の面積 405㎡
内、書庫244㎡
- (3) 平成22年度の年間統計数
 - ・開室日 264日
内、土曜32日
 - ・入館者数 36,201人（延べ数）
平日平均 151人
土曜平均 37人
 - ・館外個人貸出 8,097点 3,820人
内、DVD118点 66人
 - ・相互貸借 図書貸借 借受 115冊
貸出 189冊
文献複写 取寄 772件
提供 956件

（よねづ・ともこ 教育発達科学図書室）

秋季講習会のご案内

中央図書館では今、秋季講習会を開催中です。レポートや卒論が気になる方、文献を効率よく探したい方、就活中の方にも役立つ情報が満載です。講習会に参加して、図書館をもっとうまく使いこなしましょう。

レポート資料の探し方

テーマについての調べ方や資料の探し方など、レポートを書く際に不可欠な図書館の使い方の基本を学びます。

10/26(水) 13:30-14:30
11/4(金) 14:45-15:45

特別セミナー

人に伝わる話し方 ープレゼンテーション入門ー

自分の考えや情報をわかりやすく伝える話し方のノウハウについてお話しします。

10/26(水) 15:30-17:30

特別セミナー

自分の論理を再点検する ーレポート書き方講座ー

自分が作成したレポートの論理構成を見直し、文章の質の改善を目指します。

11/16(水) 16:30-18:15

電子リソース入門

電子ジャーナルの探し方、電子ブックを使った調べ方を習得します。

10/21(金) 13:30-14:30
10/28(金) 14:45-15:45
11/2(水) 14:45-15:45

日本語論文の探し方

日本語で書かれた学術論文の検索の基本を実習しながら習得します。

10/19(水) 14:45-15:45
10/28(金) 13:30-14:30
11/2(水) 13:30-14:30

EBSCOhost 講習会

医学、生物学、教育学、経済学などをカバーするデータベースの検索のコツを紹介します。

11/9(水) 13:30-15:00

日経テレコン21講習会

日経四紙の記事や企業情報を検索します。就職活動のための情報収集にも活用できます。

11/16(水) 13:30-14:30



Introduction to Electronic Resources

This guidance will help you to search e-journals and to do research by using e-books.

10/19(Wed.) 16:30-17:30
10/21(Fri.) 16:30-17:30

オーダーメイド講習会

ご希望の講習会を希望日に開催します。5名以上のグループで、3日前までにお申込みください。

日程：平日 2～5時限の時間帯
内容：レポート資料の探し方
ほか

最新情報は、図書館内のポスター、チラシ、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ：
中央図書館参考調査カウンター
(平日:8:30-17:15) または
sanko@nul.nagoya-u.ac.jpまで

(情報サービス課参考調査掛)

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成23年6月-平成23年8月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
名 誉 教 授	中村 正秋	初歩から学ぶ乾燥技術	11749456	中央学 3 F 571.6/N
基 礎 理 論 研 究 セ ン タ ー	棚橋 誠治	湯川秀樹 朝永振一郎 坂田昌一の遺した史料	11749520	中央学 3 F 420/Ka
名 誉 教 授	村上 澄男	連続体損傷力学：損傷・破壊解析の連続体力学的方法	11750063	中央図 1 F 501.32/Mu
理 学 研 究 科	篠原 久典	フラーレンとナノチューブの科学	11749495	中央学 3 F 435.6/Si
名 誉 教 授	樋口 敬二	夢を翔んだ翼ボイジャー：無給油無着陸の世界一周機	11751226	中央学 3 F 538.6/H
特 別 教 授	野依 良治	事実は真実の敵なり	11752217	中央学 3 F 289.1/N
医 学 系 研 究 科	上田 実	Applied tissue engineering	41530761	中央図 4 F 491.11/Us
理 学 研 究 科	篠原 久典	ナノカーボンの応用と実用化： フラーレン・ナノチューブ・グラフェンを中心に	11752912	中央図 1 F 501.48/Si
情 報 科 学 研 究 科	大岡 昌博	アクチュエータ：研究開発の最前線	11754987	中央図 4 F 548.3/H
国 際 開 発 研 究 科	山田 肖子	ガーナを知るための47章	11755029	中央学 3 F 302.444/Ta
理 学 研 究 科	篠原 久典	カーボンナノチューブ・グラフェンハンドブック	11756374	中央学 3 F 435.6/H
名 誉 教 授	河野 正憲	Comparative studies on enforcement and provisional measures	41532217	中央図 1 F 327.3/St

あなたのアイデアで図書館を変える！ 第3回図書館をよくする学生アイデアコンテスト

図書館をよくするための楽しくて、ユニークなアイデアを募集します。

今年は、図書館をもっと使い易く、うまく利用してもらうための3つのテーマを用意しました。優秀なアイデアには、賞品を進呈いたします。振ってご応募ください。

募集テーマ：

テーマA：ラーニング・コモンズはこう使う！楽しく学べるユニークな学習法

中央図書館2階にあるラーニング・コモンズは、単にPCが使えて、友達とおしゃべりしながら勉強できるスペースではありません。ラーニング・コモンズを効果的に、また独創的に使うユニークな学習法を提案してください。

テーマB：スマートフォンで、もっと便利に図書館を使いたい！

スマートフォンで利用できるこんなサービスがあればもっと便利になるのに！と思うことはありませんか？スマートフォンで使える図書館サービスを提案して下さい。

テーマC：図書館サービスのここがイマイチ！

図書館サービスのここがイマイチだと思うところ、図書館の残念なところを、こうすればきっと良くなるという、改善アイデアを教えてください。

応募資格：名古屋大学に在籍する学生

応募方法：応募用紙（図書館 Web サイトからダウンロードしてください。）に記入して、下記アドレスまでメールでお送りください。グループでの応募も可です。

応募先：e-idea@nul.nagoya-u.ac.jp メールに応募用紙を添付してお送りください。

しめきり：2011年11月30日（水）

選考方法：選考委員会で審査し、優秀賞1点、佳作数点を決定します。

[行事等] <23. 6. 6~23. 9. 5>

- ・トークサロン「ふみよむゆふべ」（中央図書館多目的室）参加者：27名 <6/14>
- ・平成23年度図書系職員初任者研修（中央図書館多目的室）参加者：18名 <6/28-29>
- ・平成23年度学術ポータル担当者研修（名古屋大学附属図書館）参加者：28名 安福奈美（中）、真野博和（中）、吉岡美智子（工）<8/3-5>
- ・平成23年度愛知図書館協会 IT 研修（愛知淑徳大学 長久手キャンパス）参加者：真野博和（中）、藤井洋子（法）<9/1-2>
- ・平成23年度革装本貴重書の手入れ実習（中央図書館研究開発室）参加者：5名<8/22-11/17>

編集委員会

岡部 幸祐（委員長）	黒柳 裕子（中）
小出 哲子（中）	真野 博和（中）
仲秋 雄介（情文）	杉江 美穂（経）
田中 幸恵（理）	神谷 知子（保）